

Fujitsu Software

システムウォーカー

Systemwalker

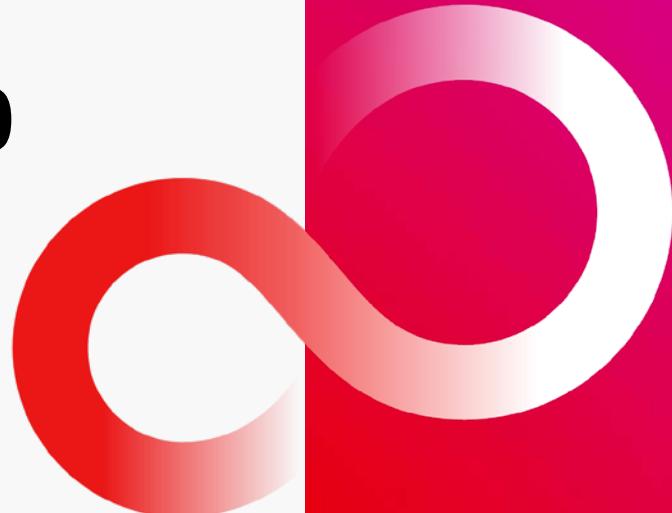
セントリック マネージャー

Centric Manager V17.0

ご紹介

2025年9月

富士通株式会社

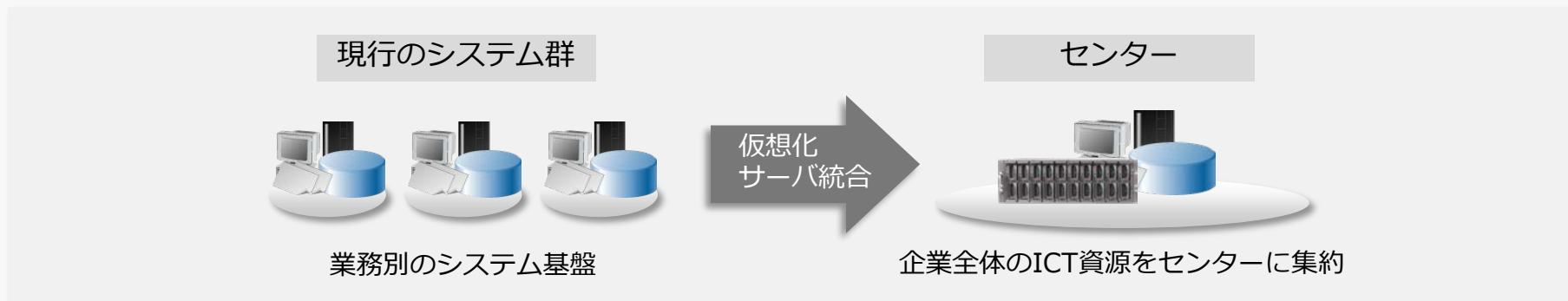


- 仮想化・サーバ統合で求められる統合監視
- Systemwalker Centric Managerの特長
- サポートの優位性
- システム構成

仮想化・サーバ統合で求められる統合監視

仮想化によるサーバ統合が進展

- コスト削減を背景に、企業全体のICT資源をセンターに集約し、仮想化による基盤統合への動きが加速



仮想化・サーバ統合によるコスト要因

- 数の要因 ⇒ 機器(サーバ、PC、ネットワーク機器)の急激な増加
- 種類の要因 ⇒ 物理サーバ、仮想サーバ、ネットワーク機器の混在

仮想化・サーバ統合によるコスト要因

■ 数の要因

センターの機器が急激に増加する

大量イベントのチェックに時間がかかる



■ 種類の要因

監視すべきICT機器は
仮想サーバだけではない

仮想環境と物理環境の個別管理は
コストも手間もかかる



センターのICTインフラが大規模・複雑化することは、管理工数のコスト増に繋がる

■ 仮想化・サーバ統合により発生した運用の課題

数の課題

大量のエラーイベントからトラブルの優先度を判断して迅速に解決したい

種類の課題

物理と仮想が混在した環境をシームレスに監視したい



センター機器の「数」「種類」に対応するには、
システム全体の一元管理による運用の効率化が必要

Systemwalker Centric Managerが解決します!

FUJITSU

■ 変化する仮想化・サーバ統合環境でのシステム全体の見える化を実現

数の課題を解決

- トラブルの状況や傾向を見る化
- 障害箇所、影響範囲を見る化
- 少ないオペレーションでトラブル原因を特定
- 大量イベントから重要イベントをフィルタリング

種類の課題を解決

- 物理サーバ、仮想サーバ、ネットワーク、ストレージ、業務の関係と稼働状況を見る化

システム全体の一元監視

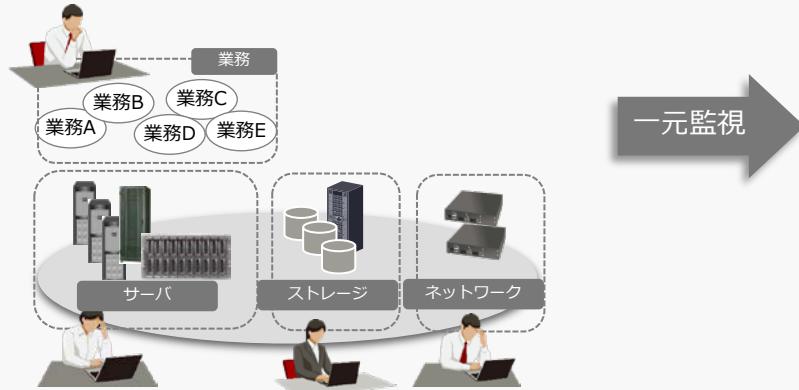
システム全体を一元監視

FUJITSU

■ 監視対象ごとに監視

業務・サーバ・ストレージ・ネットワークを監視対象ごとの担当者が別々の監視画面で管理

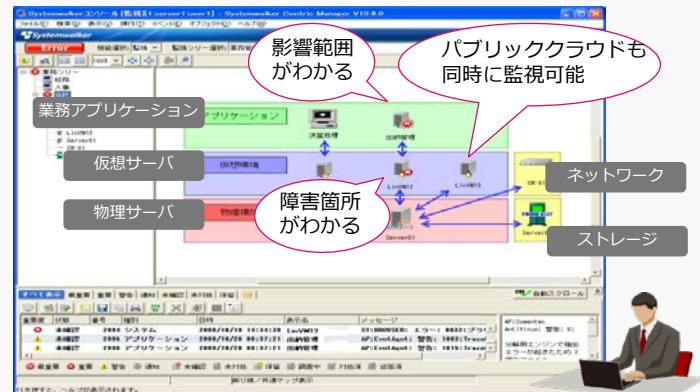
- システム全体の状況が見えない
- 障害箇所や影響範囲がわからない



■ システム全体をまとめて監視

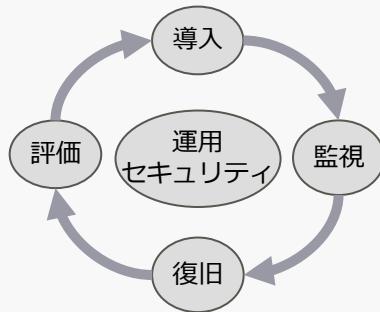
物理サーバ/仮想サーバ・ネットワーク・ストレージ・業務アプリケーションを一つの監視画面で管理

- システムの全体の稼働状況を一画面で確認
- 障害箇所、影響範囲が一目でわかる



障害箇所や影響範囲が一目でわかり迅速なトラブル対応ができる

Systemwalker Centric Managerの特長



Global Enterprise Edition

Enterprise Edition

Standard Edition

導入

- 簡単導入/セットアップ
- ソフト資源の配付
- ソフトウェア修正管理

復旧

- リモート操作
- リモートコマンド
- 電源投入/切断

監視 ①

- ハイブリッド監視 **New!**
- 稼働状況の監視
- イベントの監視
- 性能監視
- 自動通知

評価

- 運用の評価

運用セキュリティ ①

- サーバアクセス制御
- ログの記録
- ログの収集・保管
- ログの点検（レポート）

New!

V17の新機能です。
機能の詳細は「V17 新機能ご紹介」で説明しています。

監視 ②

- クラスタシステムの監視
- 大規模多階層の監視
- 冗長構成による高信頼化

運用セキュリティ ②

- コンソール操作制御

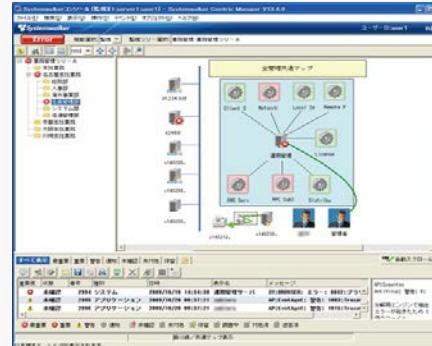
監視 ③

- メインフレームの監視

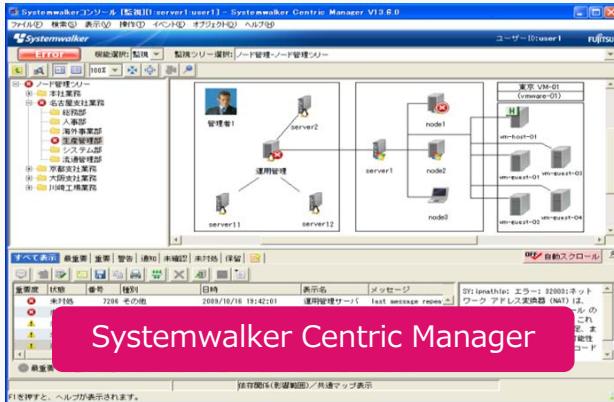
さまざまな環境のシステムを一つのコンソールで監視できる

■ すべてのシステムを1つの画面で監視

- Web GUIにより、サーバ、ネットワーク、ストレージ、アプリケーションの稼働状況を一画面で監視
- 物理サーバと仮想サーバを関連づけて監視
- 管理者の役割に応じた監視メニュー
- メインフレームも監視
- 他社運用管理製品と連携して統合監視（他社連携アダプタを無償提供）
- データセンターの統合監視と、テナント/業務システムの個別監視を両立



一画面ですべての障害が確認できる



他社製品が管理している障害メッセージを一画面で監視できる

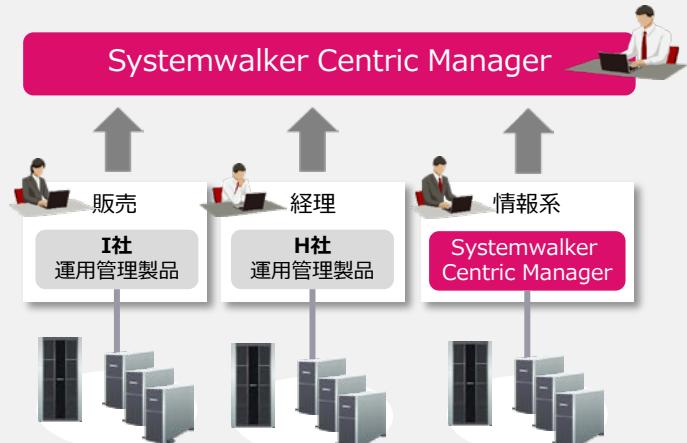
システムごとに運用管理製品が異なり統合できない

- さまざまなベンダーの運用管理製品を使用しているため統合できない

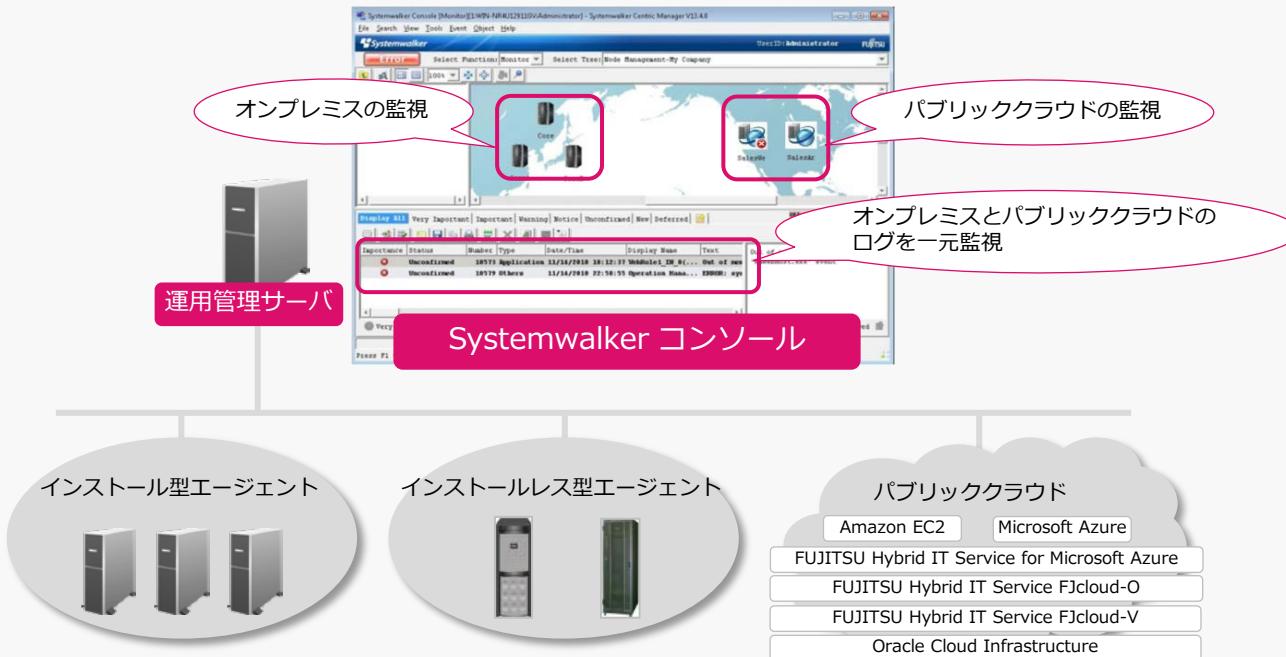


マルチベンダーの監視を統合して運用を統一

- 既存環境にSystemwalker Centric Managerを追加
- さまざまなベンダーの運用管理製品と連携して監視



オンプレミスもパブリッククラウドも一つのコンソールで集中監視できる



※ IPv6通信プロトコルをサポートしています。

システム利用部門とシステム管理部門とで監視を分担

■ 統合監視と業務システムの個別監視機能を提供

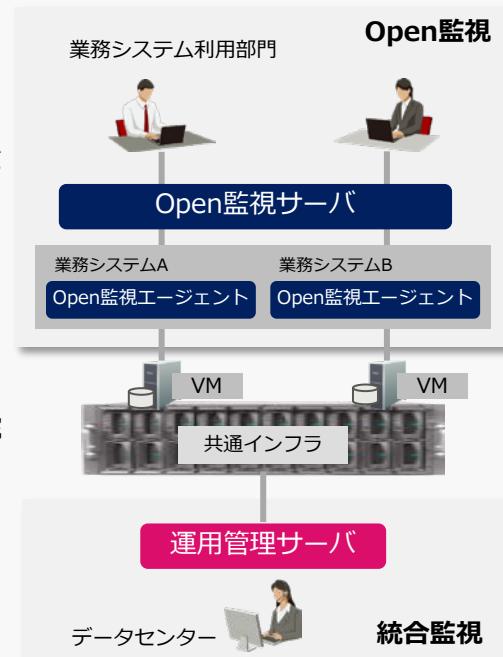
- データセンターから貸し出された仮想マシンを、業務システム利用部門で監視
- 監視設定・監視業務を業務システムに合わせてカスタマイズ可能
- ユーザーと監視対象を関連付けるマルチテナント監視によりオペレーターの作業を効率化
- OSS^(※)と共にオープンなAPI、入出力ファイルのインターフェースを提供
※)対応しているOSSはZabbixです

■ 導入を簡易化

- オール・イン・ワンの製品インストーラとスマートセットアップで簡単に導入
- 独自テンプレートの提供により、業務部門がすぐに監視が行える環境の準備が可能
- 仮想プロビジョニング後に監視を即開始可能

■ Open監視機能と統合監視機能の連携

- Open監視対象の各業務システムから発行されたイベントを、統合監視の監視画面でまとめて監視することで、オペレーターの作業を効率化

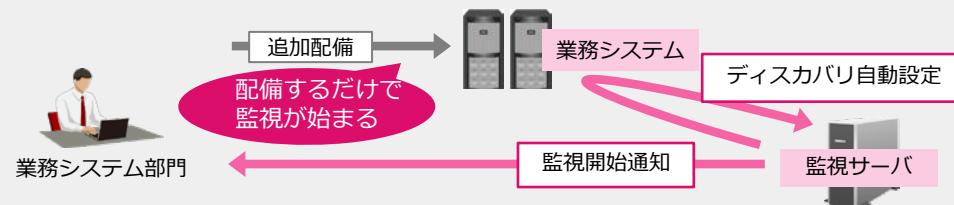


配備された仮想サーバの監視を即座に自動開始できる

【導入前】 仮想サーバを配備するたびに作業・待ちが発生

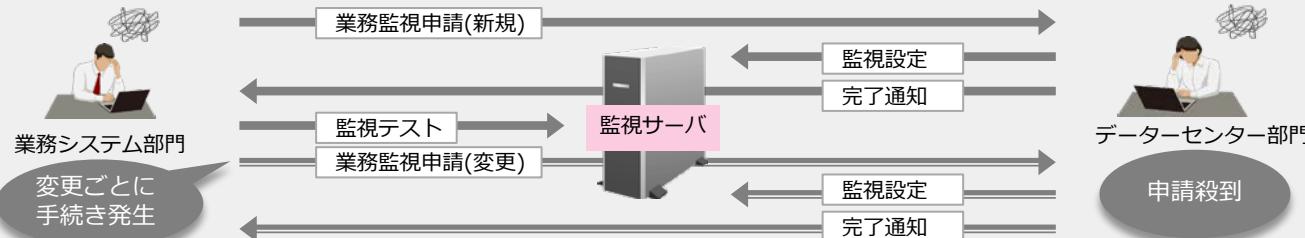


【導入後】 仮想サーバを配備するだけで監視を即座に自動開始

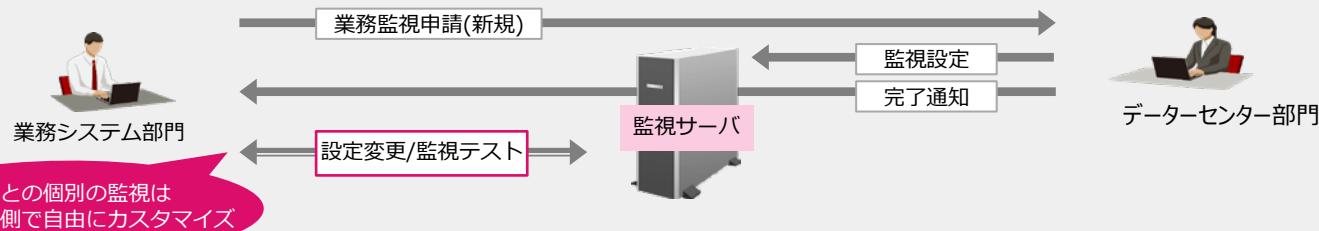


システム利用者が業務システムを個別に監視できる

【導入前】すべての監視をセンター側で一元管理



【導入後】業務の監視を利用者側に委任、センター側はインフラの監視に専念



トラブルの優先度を判断し原因を迅速に特定できる

■ Webコンソールでイベント状況を把握

- イベントの発生状況(発生数、期間での発生傾向や機種別の発生傾向など)を一目で把握
- 管理者の役割、担当範囲に応じて表示項目をカスタマイズ可能

■ 少ない手番でエラー内容を把握

- 類似イベントを集約した通知や、イベントの組み合わせを判断した原因メッセージの通知により、現象の把握や原因の特定が容易
- 1クリックでエラー情報を絞り込み、必要な情報を確認

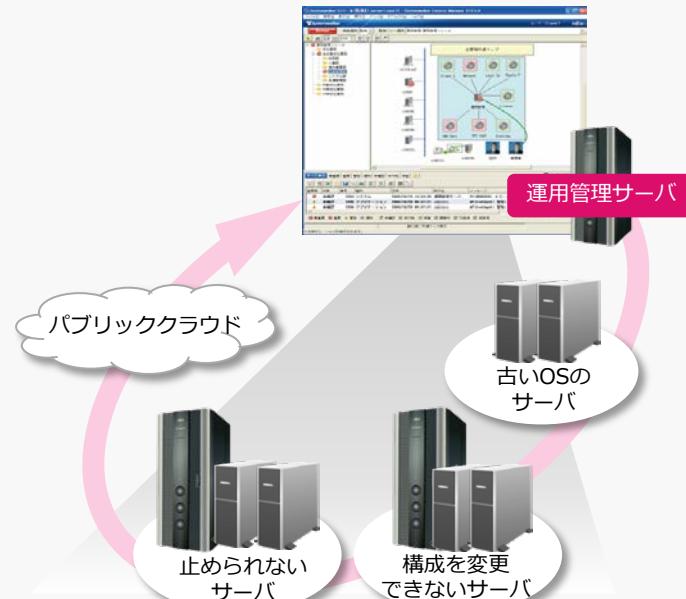
The screenshot shows the Systemwatcher web interface with a red callout bubble pointing to a table of errors. The table has columns: 件名 (Name), 件数 (Count), 時間 (Time), フルネーム (Full Name), and メッセージ (Message). One row is highlighted with a red border, and a red arrow points from this row to a larger inset at the bottom. The inset shows a detailed view of the error row with expanded information: 件名 (Name), 件数 (Count), 時間 (Time), フルネーム (Full Name), and メッセージ (Message). The message column contains text in Japanese, such as 'AP Application Error エラー 10000 アプリケーション フラッシュ イベント'.

The screenshot shows the Systemwatcher web interface with a red callout bubble pointing to a table of errors. The table has columns: 件名 (Name), 件数 (Count), 時間 (Time), フルネーム (Full Name), and メッセージ (Message). One row is highlighted with a red border, and a red arrow points from this row to a larger inset at the bottom. The inset shows a detailed view of the error row with expanded information: 件名 (Name), 件数 (Count), 時間 (Time), フルネーム (Full Name), and メッセージ (Message). The message column contains text in Japanese, such as 'AP Application Error エラー 10000 アプリケーション フラッシュ イベント'.

サーバに影響を与えずに監視できる

■ 監視対象を選ばない統合監視

- 監視対象へのSystemwalker Centric Managerのインストールが不要
- Systemwalker Centric Managerをインストールできないサーバも監視対象にできる
(24H稼働サーバ、構成を変更できないサーバ、古いOSのサーバなど)
- 異なるOSが混在するクロスプラットフォーム環境にも対応
- Systemwalker Centric Managerがインストールされているサーバとインストールされていないサーバが混在する構成にも対応
- パブリッククラウド(※)も、インストールレス方式で監視できる



※) FUJITSU Hybrid IT Service FJcloud-V、Amazon EC2、FUJITSU Hybrid IT Service for Microsoft Azureなど

24H止まらない監視で、障害イベントを確実に検出できる

■ 故障しても監視を止めない

- 運用管理サーバを二重化してトラブル時も監視を止めずに継続
(最大四重化構成まで可能)
- Systemwalker自身の稼働状況をセルフチェック
- 通信トラブルなどで通知されないイベントは復旧後に自動再送

■ 運用を止めずにバックアップ

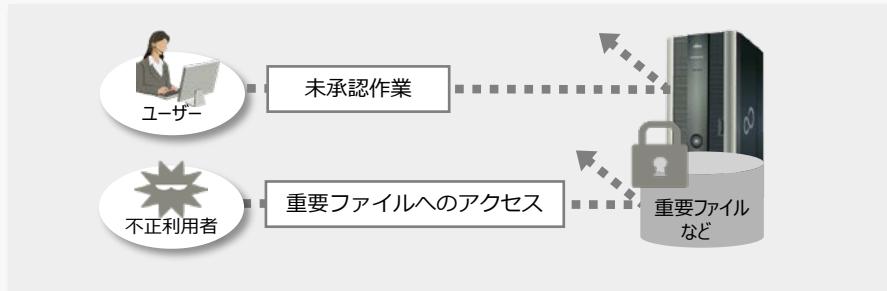
- 運用管理サーバを稼働させたまま、監視環境をバックアップできる



不正な操作や操作ミスによるトラブルを防止できる

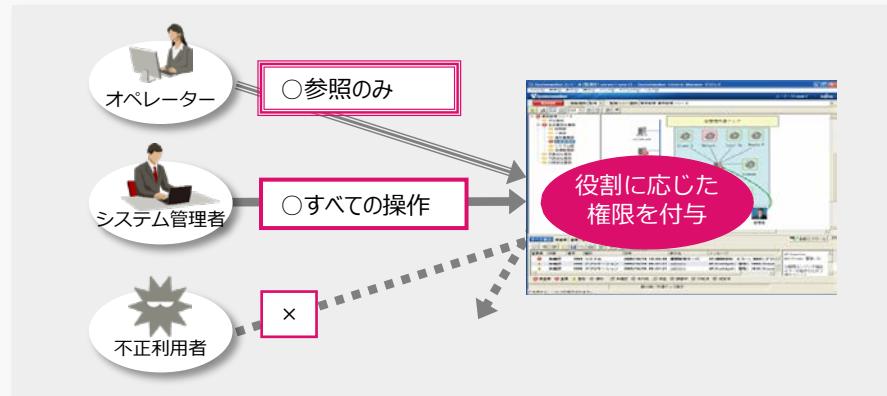
■ サーバのアクセス制御

- ユーザーごとに重要ファイルやプログラムへのアクセスを制限
- ユーザーごとにログインを制限



■ 運用管理コンソールのアクセス制御

- 管理者の役割に応じて、運用管理コンソールで操作できる権限を付与



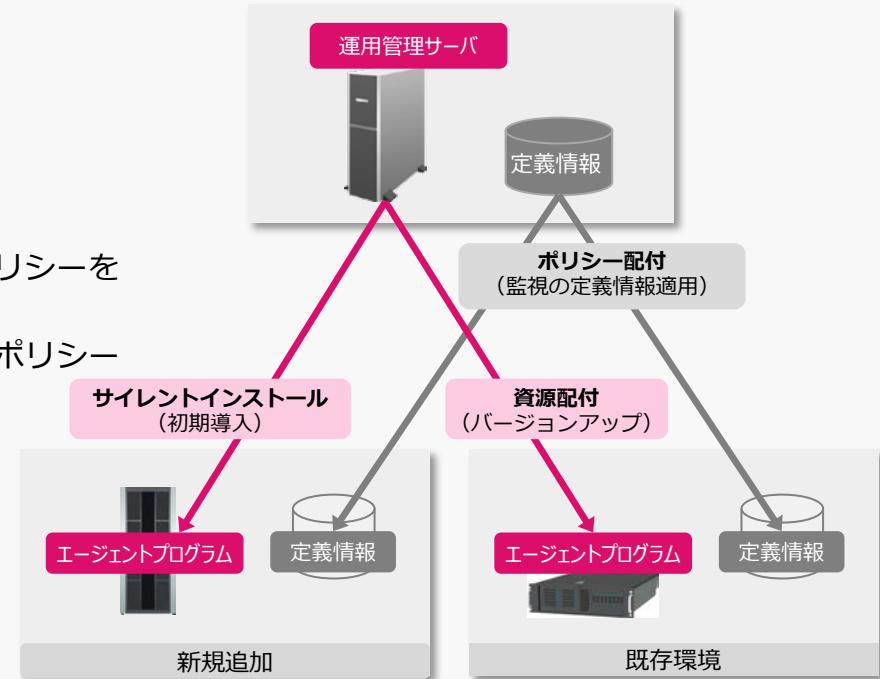
導入や監視定義の設定を効率化できる

■ 簡単導入

- 初期導入はエージェントプログラムと環境定義をサイレントインストール
- バージョンアップは資源配付機能で自動適用

■ 監視定義を一括管理、自動適用

- 監視の定義情報(ポリシー)を運用管理サーバで一元管理
- ポリシー配付機能で、運用管理サーバから監視対象にポリシーを一括適用
- お客様／提供サービス(テナント)ごとの管理者に監視ポリシーの設定権限を与え、監視ポリシーを設定可能(マルチテナント監視)
- 定義内容はGUI画面で簡単確認

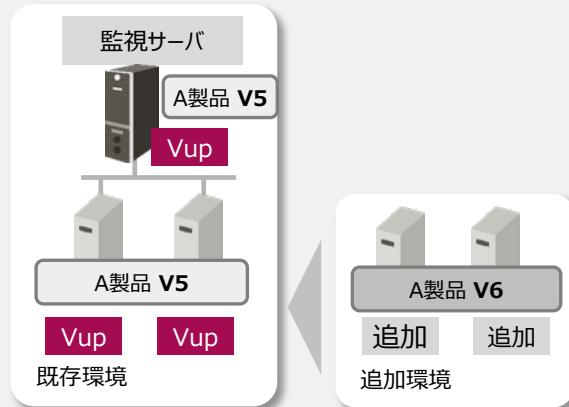


サポートの優位性

システム拡張に伴う全製品のバージョンアップは不要

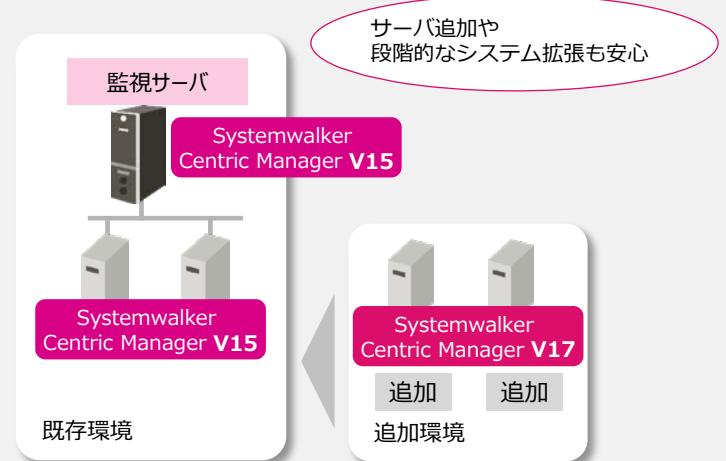
他社の場合

- 新バージョンの製品導入には、既存製品のバージョンアップが必要
- 製品ライセンスの他に、移行のためのSE費用が発生



Systemwalker Centric Managerの場合

- 異なったバージョンが混在しても利用可能
- 監視サーバと監視対象サーバのバージョンが異なる場合、古いバージョンの機能範囲で運用可能

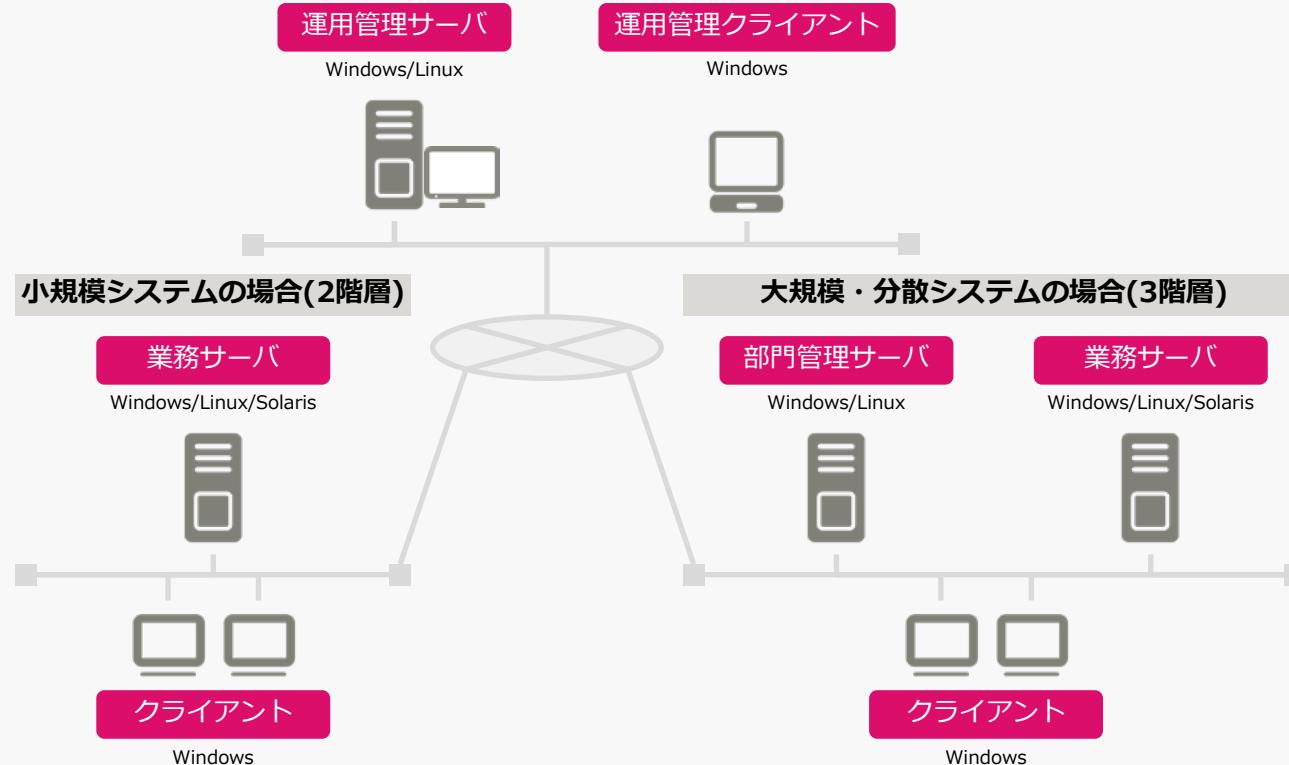


システム構成

基本のシステム構成

(Standard Edition/Enterprise Edition)

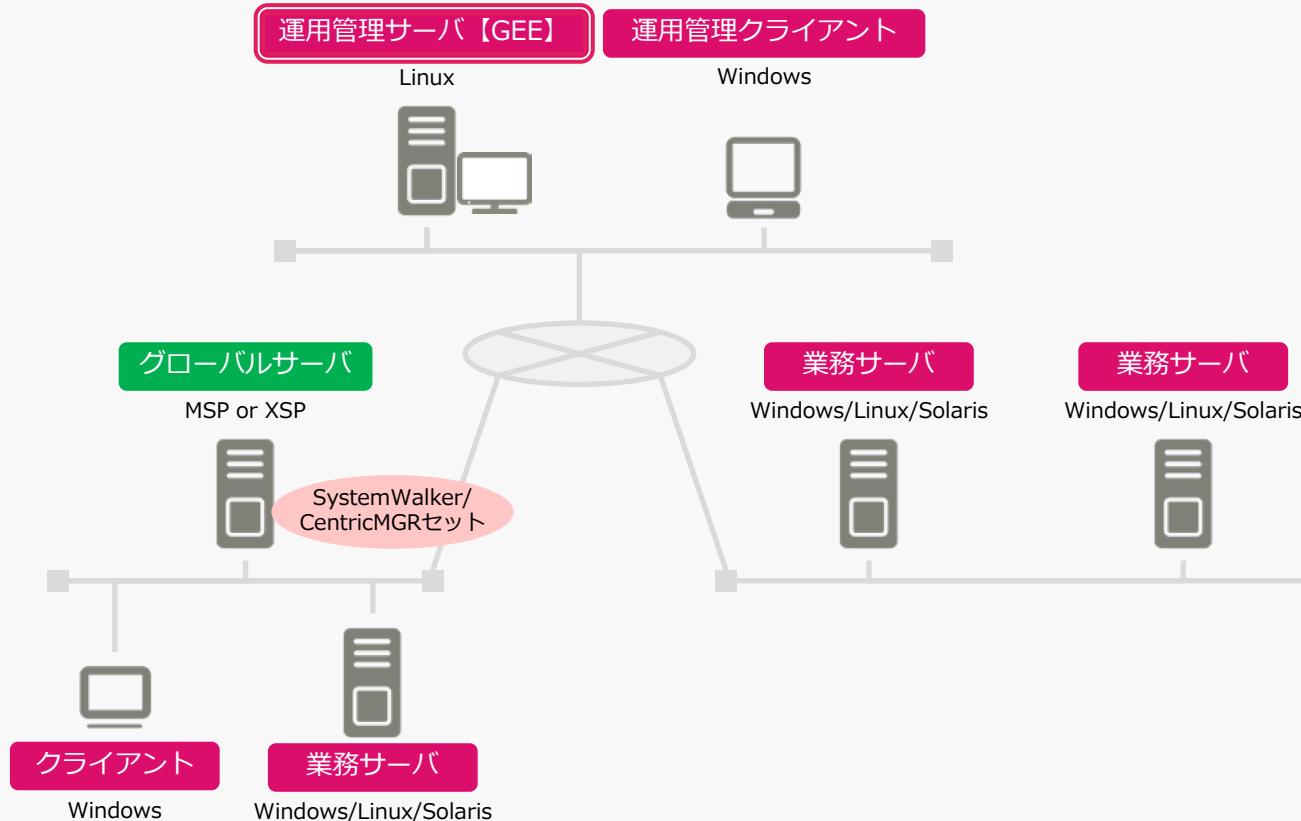
FUJITSU



基本のシステム構成

(Global Enterprise Edition)

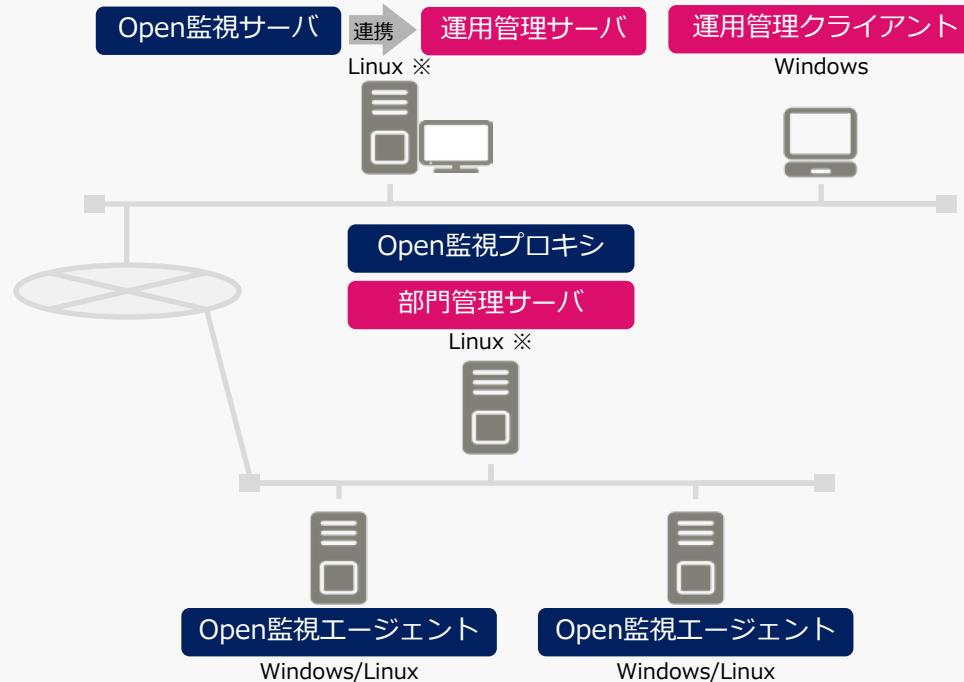
FUJITSU



Open監視のシステム構成

(統合監視と連携する場合)

FUJITSU



※ Open監視サーバとOpen監視プロキシサーバは、Linuxのみ動作可能です。

- 運用管理サーバがLinuxの場合、Open監視サーバは運用管理サーバと同居が可能です。
- 部門管理サーバがLinuxの場合、Open監視プロキシは部門管理サーバと同居が可能です。
- Windows上で運用されている運用管理サーバと連携する場合は、運用管理サーバとは別のLinux上に、Open監視サーバと部門管理サーバをインストールします。

- Amazon Web Services、その他のAWS商標は、Amazon.com, Inc.またはその関連会社の商標です。
- Linux(R)は米国およびその他の国におけるLinus Torvaldsの登録商標です。
- Microsoft、Windows、Windows Server、Azureまたはその他のマイクロソフト製品の名称および製品名は、米国 Microsoft Corporationの、米国およびその他の国における商標または登録商標です。
- Oracle(R)、Java、およびOracle Cloudは、オラクルおよびその関連会社の登録商標です。
- Red HatおよびRPMは、米国およびその他の国におけるRed Hat, Inc.およびその子会社の商標または登録商標です。
- Zabbixはラトビア共和国にあるZabbix LLCの商標です。
- そのほか、本資料に記載されている会社名および製品名は、それぞれ各社の商標または登録商標です。
- Microsoft Corporationのガイドラインに従って画面写真を使用しています。

FUJITSU

